分野	観光分野
戦略の柱	1　戦略的な観光地域づくり

参考資料3

No.	取組方針	これまでの取り組みと成果	課題	具体的な取り組み	取り組み内容 （R2～R5）	＜指標＞ 出発点 ↓ 目標値（R5）	基本方向						
							①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	中山間地域を中心に、地域の強みを生かした「外貨を稼ぐ」観光地域づくりの一層の推進	○「志国高知 幕末維新博」を通じて、県内の歴史文化施設の磨き上げや館内ガイドの配置を支援し、将来にわたって活用できる歴史観光基盤の整備を行った ○　磨き上げた歴史資源と周辺の食や自然などが一体となった周遊コース（観光クラスター）を整備し、地域の周遊促進や観光消費額の拡大につなげた ○「自然＆体験キャンペーン」の展開により、自然体験型の観光拠点の整備を行った ○　市町村の持つ施設や遊休資産と県内における観光開発の意向がある民間企業を結びつける機会を確保し、事業化に向けた支援を行った ○　土佐の観光創生塾により、地域コーディネーターを配置し、観光商品の磨き上げや販売促進への個別支援と事業者が連携する地域観光クラスター化を支援した ・土佐の観光創生塾参加者数、商品数 　参加者数　H28～30：延べ486人、R1：251人 　商品数　H28～30：累計129件、R1：60件（見込み）	○　中山間地域の観光資源を生かした「外貨を稼ぐ」観光事業の創出が必要 ○　付加価値の高い観光事業のさらなる創出を促進するため、より一層、民間活力の導入が必要 ○　土佐の観光創生塾などを通じた、地域事業者の人材育成と観光商品の創出や磨き上げが必要 ○　観光客の周遊ニーズに対応するため、多様な観光クラスターの形成が必要 ○　観光クラスターを結び合わせた、より広域の周遊を促進する取組が必要	【観01】 ◆広域エリアを越えた大きな面単位の滞在型観光も見据えて、県全域に広域を単位とする幅と厚みのある滞在型観光クラスターを形成（R2新規）	**①地域連携DMO（広域観光組織 等）が主体となった市町村をまたがる観光クラスターの整備【R2～R5】** ・地域連携DMO（広域観光組織 等）が主体となった観光クラスター整備計画作成への支援（庁内プロジェクトチームの編成 等） ・土佐の観光創生塾による、広域観光組織が中心となった観光クラスター整備計画作成への支援（先進地域の実践事例等の講座やワークショップ、地域コーディネーターによる個別支援　等） ・市町村をまたがる面的なハード・ソフト整備に対する市町村等への財政的支援	＜市町村をまたがる観光クラスターの形成＞ － ↓ 16ヶ所(R5)	○				○		
				【観02】 ◆「歴史」「食」「自然」の観光基盤を生かした多様な観光クラスターの形成	**①自然・体験型観光資源の磨き上げ【R2～R5】** ・観光拠点等整備事業費補助金等による体験滞在型観光施設や体験プログラムの整備 ・自然・体験と歴史や食が一体となった周遊コースづくりに対する、市町村等へのアドバイザー派遣や財政的支援	＜自然・体験をテーマにした自然景観、体験滞在型観光施設、体験プログラムの整備＞ 46ヶ所(H30～R元累計) ↓ 70ヶ所以上(H30～R5累計)	○				○		
				【観03】 ◆外貨を稼ぐための観光拠点整備と観光商品づくりの強化	**①観光拠点の整備【R2～R5】** ・県立施設の整備や磨き上げの継続 ・観光拠点等整備事業費補助金等による、全国からの誘客につながる広域観光の核となる拠点整備の取組支援	＜全国から誘客できる観光拠点の整備＞ 12ヶ所(H24～R元累計) ↓ 20ヶ所以上(H24～R5累計)	○						
				【観04】 ◆民間企業のノウハウを積極的に導入した観光地域づくり	**①市町村物件と民間企業とのマッチング機会の拡大【R2～R5】** ・観光拠点等整備事業費補助金等による、全国的なブランド力や独特のノウハウを持つ企業の監修等による整備への取組支援 ・民間企業への個別セールスやファムツアーの実施、市町村へのスーパーバイザー派遣、民間企業と市町村をつなぐ相談会等の開催	＜民間活力の導入件数＞ 1件(H30) ↓ 10件(H30～R5累計)	○						
2	高知県観光コンベンション協会や広域観光組織の体制及び機能強化、並びに市町村・観光協会・地域DMOとの連携強化	○　県内6ブロックに広域観光組織が設置され、官民の連携による周遊ルートの形成と情報発信やセールス活動が強化され、旅行商品化につながった ○　地域博覧会の開催などを通じて、各組織の実情に応じた機能強化や体制整備への支援を継続することで、広域的な観光地づくりを推進してきた ・広域観光組織の法人化 　R1：4か所（うち、日本版DMO法人：1、候補法人：2）	○　各組織の熟度に応じた法人化や日本版DMO法人登録に向けた機能強化が必要 ○　外貨が稼げる観光地域づくりをマネジメントできる体制強化が必要 ○　観光クラスターを結び合わせた、より広域の周遊を促進する取組が必要（再掲） ○　市町村や観光協会の戦略に基づく観光資源や事業を組み込んだ広域周遊コースの形成強化が必要 ○　地域の事業者へのきめ細かなサポートが必要	【観05】 ◆広域観光組織の体制及び機能強化（R2拡充）	**①広域観光組織の総合的な支援【R2～R5】** ・広域観光推進事業費補助金による、広域観光組織の機能強化や周遊観光の推進などの支援 ・広域観光組織へのマーケティング及びマネジメント専任人材の配置（地域おこし協力隊制度の活用） ・土佐の観光創生塾（観光地域づくりコース）による観光クラスター整備計画作成を通じた、広域観光組織職員のマネジメント力等のスキルアップ支援 ・地域観光コーディネーターの配置による、広域観光組織のステージに応じた事業展開支援	＜広域観光組織の体制強化（日本版DMO登録）＞ 1(H30) ↓ 3(H30～R5累計)	○				○		
				【観06】 ◆地域観光事業者の4定条件の確保や事業継続をサポートする仕組みの構築（R2拡充）	**①広域観光組織の次のステージに応じた事業展開の支援【R2～R5】** ・地域観光コーディネーターの配置による、広域観光組織のステージに応じた事業展開支援（再掲） ・土佐の観光創生塾による観光商品造成・磨き上げと販売への支援 ・事業者のニーズに応じた個別アドバイザー派遣		○				○		
				【観07】 ◆法人化や日本版DMO登録法人化への支援強化	**①広域観光組織の総合的な支援【R2～R5】（再掲）** ・広域観光推進事業費補助金による、広域観光組織の機能強化や周遊観光の推進などの支援 ・広域観光組織へのマーケティング及びマネジメント専任人材の配置（地域おこし協力隊制度の活用） ・土佐の観光創生塾（観光地域づくりコース）による観光クラスター整備計画作成を通じた、広域観光組織職員のマネジメント力等のスキルアップ支援 ・地域観光コーディネーターの配置による、広域観光組織のステージに応じた事業展開支援		○				○		

分野	観光分野
戦略の柱	2　効果的なセールス＆プロモーション

No.	取組方針	これまでの取り組みと成果	課題	具体的な取り組み	取り組み内容 （R2～R5）	＜指標＞ 出発点 ↓ 目標値（R5）	基本方向 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	「リョーマの休日～自然＆体験キャンペーン～」2ndシーズンの展開	○　これまで磨き上げてきた「歴史」や「食」の観光を推進しながら、自然や体験資源を活かした新しい観光事業を創出し、中山間地域やインバウンド観光の振興を目指して、キャンペーンのプラットフォームとなる特設ウェブサイトを開設した ○　首都圏等のマスメディアやSNSを活用した情報発信を継続した結果、本県の露出が拡大し、首都圏をはじめとする新たな観光客の誘致に結びついた ○　旅行会社への観光説明会を積極的に開催するとともに、旅行商品を造成する拠点都市の旅行会社に個別訪問セールスを展開し、誘客を促進した	○　「歴史」「食」「自然」の観光クラスターを生かした旅行商品化の促進が必要 ○　特設ウェブサイトを活用した効果的なPR・セールスの拡充が必要 ○　全国的な時流やトレンドを先読みするとともに、多様化する旅行動機に応える個人向けプロモーションの確立が必要	【観08】 ◆新しい観光資源を生かしたプロモーションやセールス活動の展開（R2拡充）	**①キャンペーンの展開【R2】** ・関係者の協働によりR3年3月末まで「自然＆体験キャンペーン」2ndシーズンの展開を行う **②旅行会社向けのセールス活動【R2】** ・キャンペーンの展開などに合わせた適切なセールス活動の実施 ・旅行会社の種別に合わせた販促活動の提案 ・時機を捉えた効果的な誘客プロモーションの実施 **③NEXTキャンペーン等の検討【R2～】** 【R2】 ・「自然＆体験キャンペーン」の検証とR3以降の観光キャンペーン等の検討	＜特設ウェブサイトのアクセス数＞ 75万PV（R1） ↓ 100万PV（R2）			○	○			
				【観09】 ◆全国的な話題化を創出するプロモーションの展開	**①首都圏等でのパブリシティ活動の推進【R2～R5】** ・マスメディアのネットワークを活用したパブリシティ活動の推進等による高知県の露出拡大	＜マスメディア等の媒体での露出件数＞ 568件（H30） ↓ 650件（R5）			○	○			
				【観10】 ◆多様な観光クラスターの効果的な情報発信	**①プロモーション活動【R2】** ・県内外のプロモーション活動の実施	＜特設ウェブサイトのアクセス数＞ 75万PV（R1） ↓ 100万PV（R2）			○	○			
2	自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進	○県、(公財)高知県観光コンベンション協会、市町村、競技団体等が連携を密にし、大学、社会人等のアマチュアスポーツの合宿・大会誘致を強化する ・スポーツ大会助成金を活用した誘致（H26～H30）:延べ120,069人泊 ○県推奨サイクリングコースの情報発信の強化、サイクリング環境の整備、サイクリングイベントの開催支援等を行う ・県推奨サイクリングコース「ぐるっと高知サイクリングロード」を県内全域に43コース設定 ・「こうちサイクルオアシス」を77カ所設置 ・ブルーライン及びフットサインを整備 ・「サイクリングアイランド四国」における4県連携事業の実施 ○県外からの誘客を図るため、本県の強みである自然を生かしたイベントの開催支援を行う ・新設イベント開催による県外観客数の増加 ○高知龍馬マラソンの開催を通じて、県民のスポーツや健康への関心を高めるとともに、安心・安全な大会運営や魅力的な大会づくりを行う ・H30年度：県内外出出走者11,956人 ・経済波及効果（平成30年度）：470,957千円	○合宿助成金を有効に活用できるよう、地域や競技毎の特性を捉えたﾀｰｹﾞｯﾄへのｱﾌﾟﾛｰﾁが必要 ○PRを含めたサイクリング環境整備の更なる磨き上げ ○地域の特性を生かした魅力あるスポーツイベント大会の開催促進が必要（各市町村、競技団体、事務局へのスポーツ大会支援事業助成金の更なる周知） ○龍馬マラソンに関して、大会規模の拡大に応じた受入体制の強化	【観11】 ◆プロスポーツ及びアマチュアスポーツ合宿・大会の誘致	**①大学、社会人等のアマチュアスポーツ合宿・大会の誘致【R2～5】** ・県、(公財)高知県観光コンベンション協会、市町村、競技団体等が連携を密にし、春野総合運動公園や土佐西南大規模公園等を活用し、大学、社会人等のアマチュアスポーツの合宿・大会誘致を強化する ・県内の競技力向上を狙った県外強豪校やチームの合宿・大会誘致に取り組む	＜アマチュアスポーツ合宿・大会による県外宿泊者数（人泊）＞ 20,000人泊（R1） ↓ 26,000人泊（R5）	○						
				【観12】 自然を生かしたスポーツイベントの開催強化	**①サイクリングツーリズムの取組強化【R2～５】** ・県スポーツ課、(公財)高知県観光コンベンション協会：県推奨サイクリングコースのウェブサイトによるPR、コースマップの配布及びプロモーション動画の放映に加え、台湾などから誘客を図るための外国語版マップも配布するなど、国内・外への情報発信の取組を強化する ・県スポーツ課、土木部、国土交通省等：安全かつ快適にサイクリングを楽しんでいただくため、関係機関が連携してサイクリング環境の整備に向けた取り組みを行う ・県スポーツ課、(公財)高知県観光コンベンション協会：サイクリストが高知で走るきっかけとするため、サイクリングイベントの開催支援を行う **②自然を生かしたイベントの立上げ、継続開催、拡充【R2～5】** ・県スポーツ課、(公財)高知県観光コンベンション協会：県外からの誘客を図るため、本県の強みである自然を生かしたイベントの立上げなどの開催支援を行う	①＜サイクリングイベントの県外からの参加者数＞ 1,500人(R1) ↓ 2,000人（R5） ②＜自然環境を生かしたスポーツ大会支援事業助成金申請件数＞ 2大会（700人）（R1） ↓ 3大会(1,000人) （R5）	○						
				【観13】 ◆高知龍馬マラソンの開催	**①1万人規模の大会継続に向けた魅力ある大会づくり【R2～５】** ・高知龍馬マラソン実行委員会（事務局：県スポーツ課内）：高知龍馬マラソンの開催を通じて、県民のスポーツや健康への関心を高めるとともに、安心・安全な大会運営や魅力的な大会づくりを行う	＜高知龍馬マラソンへの出走者数＞ 12,000人（R1） ↓ 12,000人（R5）	○						

分野	観光分野
戦略の柱	3　おもてなしの推進

No.	取組方針	これまでの取り組みと成果	課題	具体的な取り組み	取り組み内容 （R2～R5）	＜指標＞ 出発点 ↓ 目標値（R5）	基本方向						
							①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	バリアフリー観光の推進	○　バリアフリー観光相談窓口の設置に向けた取組を進めた ・バリア情報、バリアフリー情報の収集件数 観光施設　－（H29）　→　100件（R元） 宿泊施設　－（H29）　→　100件（R元） 交通機関　－（H29）　→　　30件（R元）	○　障害者や高齢者等が必要とする情報等を提供することのできる専門の相談窓口の設置が必要	【観14】 ◆相談窓口の設置（R2新規）	**①バリアフリー観光相談窓口の設置【R２～５】** 【R2～R3】 ・バリアフリー観光に関する専門的な相談窓口を設置し、障害者、高齢者等の多様なニーズを持つ観光客へのきめ細かな情報提供を行うことで、満足度の向上を図る 【R4～R5】 ・相談窓口の最適な配置方法等を検討したうえで、引き続き誰もが安心して楽しむことのできる受け入れ環境を整える	＜相談対応件数＞ －（R元） ↓ 100件（R5単年度）	○						
2	観光案内所におけるコンシェルジュ機能の強化	○　外国人観光客に観光情報を提供することができる観光案内所の設置に向けた取組を進めた ・外国人観光案内所の設置か所数 3か所（H26）　→　16か所（R元） ○　自然＆体験キャンペーンに合わせ、観光客に観光情報を提供する観光案内所の機能の強化に向けた取組を進めた ・観光客に情報提供を行う総合案内所・拠点となる案内所の設置か所数 13か所（H30）　→　14か所（R元）	○　観光客のニーズを踏まえたプッシュ型の情報提供など観光案内所におけるコンシェルジュ機能の強化が必要	【観15】 ◆周遊・滞在を促す観光クラスター情報の提供	**①観光案内所の機能強化【R２～R５】** 【R2】 ・観光案内所向け研修会、アドバイザー派遣を行い、観光客の周遊促進や連携強化、満足度の向上を図る	＜観光案内所の満足度＞ －（R元） ↓ 80%（R5）	○						
				【観16】 ◆観光案内所間や事業者との連携強化	**①観光案内所の機能強化【R２～R５】** 【R2】 ・観光案内所向け研修会、アドバイザー派遣、観光案内所に必要な備品等の整備への支援を行い、観光客の周遊促進や連携強化、満足度の向上を図る 【R3～5】 ・継続した研修会等の実施により満足度の向上を図る ※研修実施回数 R2：3回　→　R3：1回　→　R4：1回　→　R5：1回　　計　6回	＜研修受講事業者数（3期計画からの累計）＞ 104事業者（R元） ↓ 209事業者（R5）	○						
2	観光客の満足度をさらに高める受入環境整備	○　外国人観光客の満足度向上や外国客船寄港地としての定着を図るための取組を進めた ・沿海19市町村の主要観光地における多言語での津波避難案内板の設置 3か所（H27）　→　30か所（H30） ・観光施設・観光地等の無料Wi-Fi環境の整備 19か所（H27）　→　87か所（H29） ・無料Wi-Fiの認証手続きの簡素化を推進する高知県外国人観光客向けFree Wi-Fi整備推進協議会への参画市町村数 －（H28）　→　34市町村（H29） ・外国人観光客とのコミュニケーション力向上のための研修受講事業者数 －（H29）　→　25事業者（H30） ○外国人観光客にもおもてなしができる観光ガイド団体の育成に向けた取組を進めた	○　消費や利便性の向上に向けた多言語対応等の受入環境整備のさらなる拡大が必要	【観17】 ◆Wi-Fi、多言語対応等の受入環境整備を支援（コーディネーターの配置）	**①受入環境整備コーディネーターの配置による支援【R２～５】** ・受入環境整備コーディネーターを配置し、市町村や観光協会、観光関連事業者等の受入環境整備を支援する **②研修会の実施による受入環境の整備【R２～R５】** ・外国人観光客の受入研修及び観光施設等へのアドバイザー派遣を行い、観光関連事業者における受入環境整備のさらなる充実を図る ※研修実施回数 R2：3回　→　R3：1回　→　R4：1回　→　R5：1回　　計　6回	＜研修受講事業者数（延べ）＞ 109事業者（R元） ↓ 200事業者（R5）	○						
				【観18】 ◆国内外からの観光客におもてなしができる観光人材の育成及び観光ガイド団体の育成強化	**①観光ガイド団体の育成強化【R２～R５】** ・観光ガイド向け研修会や観光ガイド団体へのアドバイザー派遣を行い、おもてなしができる観光人材の育成及び観光ガイド団体の育成強化を図る。 ※研修実施回数 R2：4回　→　R3：4回　→　R4：4回　→　R5：4回　　計　16回	＜高知県観光ガイド連絡協議会への加盟団体数＞ 31団体（R元） ↓ 35団体（R5）	○				○		
4	周遊促進やリピーター化のさらなる推進	○　リピーターとなるきっかけづくりや県内周遊を促進するツールの龍馬パスポートの継続と充実実施に取り組んだ	○　周遊促進やリピーター化のさらなる推進が必要	【観19】 ◆龍馬パスポートの実施	**①龍馬パスポートの継続・拡充【R2～R5】** ・龍馬パスポートを活用した周遊促進、リピーター対策の実施、電子化も含めたさらなる機能拡充の検討	＜龍馬パスポート(青)の利用者数＞ 213,482人（H30） ↓ 310,000人（R5）	○						
				【観15】 ◆周遊・滞在を促す観光クラスター情報の提供（再掲）									

分野	観光分野
戦略の柱	4　国際観光の推進

No.	取組方針	これまでの取り組みと成果	課題	具体的な取り組み	取り組み内容 （R2～R5）	＜指標＞ 出発点 ↓ 目標値（R5）	基本方向						
							①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	訴求力の高い外国人向け旅行商品づくりの推進	○　外国人旅行者向け「鉄板」観光商品づくりを行った ○　重点4市場（台湾、香港、シンガポール、タイ）において、海外旅行会社へのセールスルートを持った企画会社と連携し、定期的なセールス活動を展開した ○　重点4市場（台湾、香港、シンガポール、タイ）に海外セールス拠点（レップ）を設置し、海外旅行会社やメディア等へのセールス活動と情報発信を実施するとともに、重点市場を拡充（中・韓・米・豪を追加）し、団体に加えて個人旅行に対応した 誘客を強化した ○　海外セールス拠点（中・韓・米・豪）を拡充するとともに、個人旅行者向けの商品づくりと情報発信を強化した	○　団体旅行の催行率向上と個人旅行商品の販売促進が必要	【観20】 ◆外国人目線を生かした旅行商品の拡充（R2拡充）	**①海外旅行博等への出展【R2～R5】** ・当県を含む旅行商品の造成を促進するため、ターゲット市場における海外旅行博等に四国または高知で出展し、あわせて現地旅行会社等への個別セールスを行う **②市場別のニーズを把握した旅行商品の造成及び販売促進【R2～R5】** ・海外セールス拠点を活用し、各市場における旅行需要等のトレンドを把握しながら、（公財）高知県観光コンベンション協会と一体となって旅行会社等へのセールスを行う	＜観光庁宿泊旅行統計調査外国人延べ宿泊者数（従業員数10人未満の施設含む）＞ 79,160人泊（H30） ↓ 30万人泊（R5）				○			
				【観03】 ◆外貨を稼ぐための観光拠点整備と観光商品づくりの強化（再掲）									
2	四国4県が連携した四国周遊旅行商品づくりの推進	○　各市場のニーズに合うモデルコースを組み込んだ四国周遊の旅行商品の造成と販売を促進	○　高知龍馬空港の国際線対応化を見据えたチャーター便と四国内空港と連携したチャーター便の誘致拡大が必要	【観21】 ◆国際チャーター便の戦略的な誘致拡大と商品造成販売	**①チャーター便の誘致拡大【R2～R5】** ・海外からのアクセス環境を向上させるため、国際定期路線化を見据え、高知龍馬空港の整備と連携した国際チャーター便や四国内の空港を活用したチャーター便の誘致拡大を図る	＜国際チャーター便の運航数（高知龍馬空港）＞ 7往復（H30） ↓ 週2回の定期便及び100往復（R5）				○			
				【観22】 ◆広域周遊観光の促進	**①各県と連携した四国周遊商品のセールスの実施【R2～R5】** ・当県の外国人延べ宿泊者数を増加させるため、四国4県および国際線を持つ他の自治体等と連携し、広域での周遊ルートづくり（新規コンテンツの発掘含む）を進め競争力を高めるとともに周遊ルート上における観光案内の強化等を図る	＜観光庁宿泊旅行統計調査外国人延べ宿泊者数（従業員数10人未満の施設含む）＞ 79,160人泊（H30） ↓ 30万人泊（R5）				○			
3	国際線直行便を持つ首都圏・関西圏と連携した広域観光の推進	○「東京都と中国・四国地域の連携による外国人旅行者誘致事業」において、東京都と連携し、都内の観光資源に当県の観光資源を組み合わせたインターネットによるプロモーションを実施した。 ○「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」において、兵庫県・徳島県と連携し、メディアの招請等を行った。 ○「山陰・瀬戸内・四国エクスプレスウェイパス」で、瀬戸内・山陰の各県及び兵庫県の10県で連携し、地域内の高速道路の割引チケットの利用促進及びドライブプランのプロモーションを行った。	○首都圏・関西圏での国際空港（成田・羽田・関空）を利用した旅行商品の販売促進及び利用者等への情報提供が必要	【観23】 ◆首都圏・関西圏の国際空港利用者等への情報発信の強化	**①首都圏・関西圏の国際空港を利用した旅行商品の造成及び販売促進【R2～R5】** ・重点8市場のうち、四国に直行便のない4市場（アメリカ、オーストラリア、シンガポール、タイ）を中心に、海外セールス拠点を活用し旅行会社等へのセールスを行う。 **②首都圏・関西圏にいるインバウンドへの情報発信の強化【R2～R5】** ・既に首都圏・関西圏へ来日しているインバウンドを来高させる、もしくは次回の来日の際に来高させることを目的に、首都圏・関西圏における着地型の情報発信を強化する。	＜観光庁宿泊旅行統計調査外国人延べ宿泊者数（従業員数10人未満の施設含む）＞ 79,160人泊（H30） ↓ 30万人泊（R5）				○			

4	訪日外国人向けプロモーションの抜本強化	○　重点4市場（台湾、香港、シンガポール、タイ）に海外セールス拠点（レップ）を設置し、海外旅行会社やメディア等へのセールス活動と情報発信を実施するとともに、重点市場を拡充（中・韓・米・豪を追加）し、団体に加えて個人旅行に対応した 誘客を強化した（再掲） ○　海外セールス拠点（中・韓・米・豪）を拡充するとともに、個人旅行者向けの商品づくりと情報発信を強化した（再掲）	○　旅先としての認知度の向上及びキラーコンテンツのFIT層への定着が必要	【観24】 ◆訪日旅行に関心のある方々に向けて、デジタル技術の手法を活用した本県の魅力をダイレクトに伝えるプロモーションの推進	**<u>①デジタルプロモーションの実施【R2～R5】</u>** 動画広告やアドネットワーク広告の配信といった手法の活用により、本県の魅力を伝える対策を強化し、海外における本県の認知度を向上させる **<u>②デジタルマーケティングの活用【R2～R5】</u>** 動画広告の視聴状況やアドネットワーク広告による外国人向け観光情報サイト「VISIT KOCHI JAPAN」の閲覧傾向等、デジタルプロモーションの効果を検証し、更なる効果的なプロモーションやセールスの実施へとつなげる **<u>③有力媒体（WEB&SNS）でのプロモーション【R2～R5】</u>** デジタルマーケティングによる効果と検証を生かしながら、海外の有力な旅行情報サイトで旅行先高知の観光情報や周遊方法を掲載することで、個人旅行者（FIT）の旅行商品購入を促進する **<u>④外国人向け観光情報サイトの充実【R2～R5】</u>** デジタルプロモーションだけでなく、オフラインプロモーション（各市場での旅行ガイドブックや雑誌等における本県の露出）によるVISIT KOCHI JAPANへの誘導も行うことで、本県の多様な観光資源を紹介しつつ、サイト内の旅行商品予約ページからの誘客も図る	＜外国人向け観光情報サイト「VISIT KOCHI JJAPAN」のページビュー（PV）数＞ 373,388PV（H30） ↓ 900,000PV（R5）				○			
				【観25】 ◆OTAを活用したプロモーション	**<u>①有力媒体（WEB&SNS）でのプロモーション【R2～R5】（再掲）</u>** ・デジタルマーケティングによる効果と検証を生かしながら、海外の有力な旅行情報サイトで旅行先高知の観光情報や周遊方法を掲載することで、個人旅行者（FIT）の旅行商品購入を促進する	＜外国人向け観光情報サイト「VISIT KOCHI JJAPAN」のページビュー（PV）数＞ 373,388PV（H30） ↓ 900,000PV（R5）				○			
				【観26】 ◆訪日外国観光客への情報発信	**<u>①デジタルプロモーションの実施【R2～R5】（再掲）</u>** ・動画広告やアドネットワーク広告の配信といった手法の活用により、本県の魅力を伝える対策を強化し、海外における本県の認知度を向上させる **<u>②有力媒体（WEB&SNS）でのプロモーション【R2～R5】（再掲）</u>** ・デジタルマーケティングによる効果と検証を生かしながら、海外の有力な旅行情報サイトで旅行先高知の観光情報や周遊方法を掲載することで、個人旅行者（FIT）の旅行商品購入を促進する **<u>③外国人向け観光情報サイトの充実【R2～R5】（再掲）</u>** ・デジタルプロモーションだけでなく、オフラインプロモーション（各市場での旅行ガイドブックや雑誌等における本県の露出）によるVISIT KOCHI JAPANへの誘導も行うことで、本県の多様な観光資源を紹介しつつ、サイト内の旅行商品予約ページからの誘客も図る	＜外国人向け観光情報サイト「VISIT KOCHI JJAPAN」のページビュー（PV）数＞ 373,388PV（H30） ↓ 900,000PV（R5）				○			
5	「よさこい」を活用した海外プロモーションの展開	○　東京オリンピック・パラリンピック競技大会開閉会式等でのよさこい演舞実現や海外の関係者等へおもてなしをしていくため、H29.3月に「2020よさこいで応援プロジェクト実行委員会」を設立し、関係機関への要望活動等を行った。 ・2020よさこいで応援プロジェクト実行委員会の会員数 H28：67団体⇒R1：92団体 ・オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への要望活動（H28～R1：5回） ○　2020よさこいで応援プロジェクト実行委員会と連携しメディアを活用した情報発信により「よさこい」を世界にアピールするとともによさこいアンバサダーの認定などにより世界でのネットワークを拡大した。 ・よさこいが踊られている国・地域 H27：16の国や地域⇒R1：29の国や地域 ・よさこいアンバサダーの認定　19ヵ国23チーム65名（H28～R1）	○　よさこい発祥の地高知の世界における認知度の向上が必要	【観27】 ◆発祥の地高知と観光地高知の認知度の飛躍的な向上	**<u>①よさこいを活用した海外プロモーション【R2～R5】</u>** ・オリンピック・パラリンピック競技大会の開閉会式等でのよさこい演舞実現に向けた活動等により培ったネットワークを生かして、海外でのよさこい発祥の地及び観光地高知の認知度向上を図る	＜よさこいが踊られている国・地域＞ 29（R1） ↓ 40（R5）				○			
				【観28】 ◆国内外ネットワークのさらなる拡大	**<u>①国内ネットワークの拡大【R2～R5】</u>** ・2020よさこいで応援プロジェクト実行委員会で培ったネットワークの活用により海外に向けよさこいをアピールする機会の拡大を図る **<u>②海外ネットワークの拡大【R2～R5】</u>** ・県が認定しているよさこいアンバサダーと、海外の祭り等の主催者（オーガナイザー）との連携を促進するとともによさこいマイスターの効果的な派遣により、海外でのよさこいPR、よさこい演舞機会の拡大等に取り組み、よさこいの普及と発祥の地高知の認知度向上を図る	＜よさこいが踊られている国・地域＞ 29（R1） ↓ 40（R5）			○	○			

6	四国4県が連携したプロモーションの推進	○　各市場のニーズに合うモデルコースを組み込んだ四国周遊の旅行商品の造成と販売を促進（再掲）	○　高知龍馬空港の国際線対応化を見据えたチャーター便と四国内空港と連携したチャーター便の誘致拡大が必要（再掲）	【観29】 ◆チャーター便の誘致拡大	**①チャーター便の誘致拡大【R2～R5】（再掲）** ・海外からのアクセス環境を向上させるため、国際定期路線化を見据え、高知龍馬空港の整備と連携した国際チャーター便や四国内の空港を活用したチャーター便の誘致拡大を図る	＜国際チャーター便の運航数（高知龍馬空港）＞ 7往復（H30） ↓ 週2回の定期便及び100往復（R5）				○			
				【観30】◆四国ツーリズム創造機構を中心に四国4県が連携した誘客促進	**①各県と連携した四国周遊商品のセールスの実施【R2～R5】（再掲）** ・当県の外国人延べ宿泊者数を増加させるため、四国4県および国際線を持つ他の自治体等と連携し、広域での周遊ルートづくり（新規コンテンツの発掘含む）を進め競争力を高めるとともに周遊ルート上における観光案内の強化等を図る	＜観光庁宿泊旅行統計調査外国人延べ宿泊者数（従業員数10人未満の施設含む）＞ 79,160人泊（H30） ↓ 30万人泊（R5）				○			

分野	観光分野
戦略の柱	5　事業体の強化と観光人材の育成

No.	取組方針	これまでの取り組みと成果	課題	具体的な取り組み	取り組み内容 （R2～R5）	＜指標＞ 出発点 ↓ 目標値（R5）	基本方向						
							①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	観光産業を支える事業体の強化と観光人材の育成・確保	○　地域コーディネーターを配置し、観光商品の磨き上げや販売促進への個別支援と事業者が連携する地域観光クラスター化を支援した（再掲） ○　地域ごとや県全域での研修会の開催及び各団体へのアドバイザー派遣を実施することにより、質の高いガイド技術の習得や団体の連携強化につながった（再掲）	○　土佐の観光創生塾などを通じた、地域事業者の人材育成と観光商品の創出や磨き上げが必要（再掲） ○　観光ガイド団体の体制整備と活動充実の取組への支援が必要	【観31】 ◆土佐の観光創生塾の継続・拡充	**①自然・体験型観光商品の磨き上げと販売の促進【R2～R5】** ・「土佐の観光創生塾」の開催（事業者の個別の課題に対応したコース設定） ・地域コーディネーター等のハンズオン支援による自然・体験型観光商品の磨き上げ・販売と事業者連携の促進	＜創生塾を通じた自然・体験型商品（地域観光クラスターを含む）の販売＞ 69商品(H30) ↓ 50商品(R5)	○				○		
				【観05】 ◆広域観光組織の体制及び機能強化（再掲）	**①広域観光組織の総合的な支援【R2～R5】** ・広域観光推進事業費補助金による、広域観光組織の機能強化や周遊観光の推進などの支援 ・広域観光組織へのマーケティング及びマネジメント専任人材の配置（県・地域おこし協力隊制度の活用） ・土佐の観光創生塾（観光地域づくりコース）による観光クラスター整備計画作成を通じた、広域観光組織職員のマネジメント力等のスキルアップ支援	＜広域観光組織の体制強化（日本版DMO登録）＞ 1(H30) ↓ 3(H30～R5累計)	○				○		
				【観06】◆地域観光事業者の4定条件の確保や事業継続をサポートする仕組みの構築（R2拡充）（再掲）									
				【観18】◆国内外からの観光客におもてなしができる観光人材の育成及び観光ガイド団体の育成強化（再掲）									